

人口階級	明治三十一年	同三十六年	同四一年	大正二年	同七年	同九年	同十四年
五〇一—一,〇〇〇	五八七五,四〇三	四,六四七,一七八	二七六,七九三	二四〇,一九四	二二六,二〇四	二四二,七〇六	二二二,八九五
一,〇〇一—二,〇〇〇	二四,四五六,九五四	二五,四三三,四四四	三,五〇一,三二五	三,七三三,四三三	三,二八三,三五一	三,七六四,六〇四	三,六四〇,五一五
二,〇〇一—五,〇〇〇	六,八六八,二九四	八,五八九,九九五	一〇,七三六,三三三	一二,一〇五,二四四	一二,五三三,四五一	一二,〇六二,〇二七	一二,五三三,八〇三
五,〇〇一—一〇,〇〇〇	二,〇二五,一七三	二,四八一,二六六	三,五八六,二〇〇	四,四九六,八二〇	五,〇六三,二九四	五,〇七四,四六〇	五,三九一,六二一
一〇,〇〇一—二〇,〇〇〇	一,七四七,六七〇	二,〇二二,一九三	九一八,四八四	四一〇,一六一	七四九,七七七	七二五,〇九〇	一,八〇七,一三三
二〇,〇〇一—三〇,〇〇〇	七七三,四八一	一,〇七七,〇五八	一,三五二,五六五	一,八五五,五五〇	二,二八一,八七九	二,一〇五,三一八	三,四四四,九一六
三〇,〇〇一—四〇,〇〇〇	三,四九七,九一〇	四,四六九,五四四	五,五三六,八三五	五,九三七,七〇四	七,二九二,四三九	六,七五三,五九八	八,七四二,一三七
四〇,〇〇一—五〇,〇〇〇	四,四〇三,〇四二	四,八五四,一七三六	五,一七四,二四八六	五,五,三一,二七〇	五,八,〇八七,二七七	五,五,九六三,〇五三	五,九,七三六,八三三
總計	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上

人口 (比例)

人口階級	明治三十一年末	同三十六年末	同四一年末	大正二年末	同七年末	同九年	同十四年
五〇〇迄	四・四	二・三	一・一	〇・八	〇・七	〇・六	〇・四
五〇一—一,〇〇〇	一三・〇	九・五	五・三	四・四	三・七	四・三	三・六

人口階級	明治三十一年末	同三十六年末	同四一年末	大正二年末	同七年末	同九年	同十四年
一,〇〇一—二,〇〇〇	五三・八〇	五八・〇	四六・九〇	四四・一六	四〇・五・一	四三・二・一	三七・七・一
二,〇〇一—三,〇〇〇	一四・九・二	一七・七・〇	二〇・七・五	二二・九・五	二二・四・八	一九・三・四	一九・二・〇
三,〇〇一—四,〇〇〇	四三・九	五二・一	六九・三	八一・六	八七・二	九〇・七	八七・五
四,〇〇一—五,〇〇〇	二五・〇〇一—三〇,〇〇〇	二五・〇〇一—三〇,〇〇〇	二五・〇〇一—三〇,〇〇〇	二五・〇〇一—三〇,〇〇〇	二五・〇〇一—三〇,〇〇〇	二五・〇〇一—三〇,〇〇〇	二五・〇〇一—三〇,〇〇〇
五,〇〇一—一〇,〇〇〇	三八・五	四一・六	一七・八	七・四	一一・九	一一・八	三・〇・三
一〇,〇〇一—二〇,〇〇〇	一七・〇	二二・二	二六・一	三三・六	三九・三	三七・六	五七・七
二〇,〇〇一—三〇,〇〇〇	一七・〇	二二・二	二六・一	三三・六	三九・三	三七・六	五七・七
三〇,〇〇一—四〇,〇〇〇	一七・〇	二二・二	二六・一	三三・六	三九・三	三七・六	五七・七
四〇,〇〇一—五〇,〇〇〇	一七・〇	二二・二	二六・一	三三・六	三九・三	三七・六	五七・七
五〇,〇〇一—一〇〇,〇〇〇	一七・〇	二二・二	二六・一	三三・六	三九・三	三七・六	五七・七
總計	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上	一〇〇,〇〇〇以上

### 第三 内地ニ於ケル人口ノ産業の分布

(調査項目第一部第三項)

實數	大正九年國勢調査(抽出法ニ依ル結果)	千分比例
總數	五五、八四九、〇〇〇	一、〇〇〇
農 業	二六、九四三、〇〇〇	四八二
工 業	一〇、八六五、〇〇〇	一九五
商 業	七、六四六、〇〇〇	一三七
水 産 業	一、四九二、〇〇〇	二七
公務自由業	二、九九二、〇〇〇	五四
交 通 業	二、五一六、〇〇〇	四五
鐵 業	一、〇二一、〇〇〇	一八
其他ノ有業者	一、〇一〇、〇〇〇	一八
家事使用人	六八、〇〇〇	一
無 職 業	一、二九六、〇〇〇	二三

#### 附錄參考

- 一 主要國ニ於ケル人口(實數、比例)
- 二 外國ニ於ケル人口ノ産業の分布

イ 米國ニ於ケル職業別本業者數(實數、比例)  
 口 獨逸ニ於ケル職業別人口(實數、比例)

(一) 主要國ニ於ケル人口(佛蘭西ハ現在人口其他ハ現在人口×一八七二)年ハ我明治五年ニ當ル米國ノ△印ハ白人數)  
 實數

年次	英蘭威爾斯	米國	獨逸	佛蘭西 (アルサスローレン) (ハ含マズ)	白耳義
一八三〇年		二、八六六、〇二〇			
一八三一年	一、八九六、七九七	一〇、五三七、三七八			
一八四〇年		一七、〇六九、四三三			
一八四一年	一、五九一、四一八	一四、一九五、八〇五			
一八四六年		二二、一九一、八七六			四、三三七、一九六
一八五〇年		一九、五五三、〇六八			
一八五一年	一七、九二七、六〇九				

一八五六年		三一、四四三、三二二			四、五二九、五六〇
一八六〇年	二〇、〇六六、三三四	二六、九三三、五三七			
一八六一年		三八、五五八、三七一			
一八七〇年		三三、五八九、三七七			
一八七一年	三三、七二二、二六六		四、一〇五、八九三		
×一八七二年				三六、一〇三、九二二	
一八七六年		五〇、一五五、七八三	四、五、三三四、〇六一		五、三三六、一八五
一八八〇年	一五、九七四、四三九	四三、四〇二、九七〇		三七、六七三、〇四八	五、五二〇、〇〇九
一八八一年		六二、九四七、七一四	四、九、四二八、四七〇		六、〇六九、三二二
一八九〇年		五五、一〇一、二五八		三八、三四二、九四八	
一八九一年	一九、〇〇一、五二五		五、六、三六七、一七八	三八、九六一、九四五	六、六九三、五四八
一九〇〇年		七五、九九四、五七五			
一九〇一年	三二、五二七、八四三	六六、八〇九、一九六	五、九、九二五、九九三		
一九一〇年		九一、九七二、二六六		三九、六〇四、九九二	
一九一一年	三六、〇七〇、四九二	八一、七三一、九五七	五、九、一七六、二二四		七、四三三、七八四
一九一九年		一〇五、七二〇、六二〇			
一九二〇年		九四、八二〇、九一五		三九、二〇九、五一八	七、四〇五、五六九 <small>(オーストリア、ハンガリー、ルーマニア、ギリシア、ブルガリア、セルビア、モンテネグロ、ユーゴスラビア)</small>
一九二一年	三七、八八六、六九九				

指數 (米國指數ハ總人口ノ指數トス)

年次	英蘭威爾斯	米國	獨逸	佛蘭西	白耳義
一八三〇年	六二	三三			
一八三一年					
一八四〇年	七〇	四四			
一八四一年					
一八四六年					
一八五〇年	七九	六〇			
一八五一年					
一八五六年					八五
一八六〇年		八二			
一八六一年	八八				
一八七〇年		一〇〇	一〇〇		
一八七一年					
一八七二年					
一八七六年					一〇〇
一八八〇年		一三〇	一一〇		一〇三
一八八一年	一一四			一〇四	

年次	總數	農業	工業	商業及 交通業	家庭及 人的役務	自由 業務	鑛業	木材業	漁業
一八九〇年	二,八八一	一,〇七一	三,五〇〇	七三	二,八八	八一	八	五	六
一八九一年									
一九〇〇年	三,九四〇	二,七三三	五,三四	一三三	三,八六	一〇九	一一	六	九
一九〇一年									
一九一〇年	五,四三〇	三,七二八	七,九二	一〇七	五,〇〇	一四七	一五	九	三
一九一一年									
一九一九年	七,六九七	四,九六五	一,二六一	四一五	七,五	二〇七	八九	一三	二
一九二〇年	一〇,五三二	六,二六七	一,九三三	七八三	一〇,〇	三〇五	一六八	二	〇
一九二一年	一二,九二七	六,九〇四	二,七四六	一,三四七	一,三三八	三七九	一七六	二九	二

(二) 外國ニ於ケル人口ノ産業的分布  
イ 米國ニ於ケル職業別本業者數 (單位千人)

年次	總數	農業	工業	商業及 交通業	家庭及 人的役務	自由 業務	鑛業	木材業	漁業
一八二〇年	二,八八一	一,〇七一	三,五〇〇	七三	二,八八	八一	八	五	六
一八三〇年	三,九四〇	二,七三三	五,三四	一三三	三,八六	一〇九	一一	六	九
一八四〇年	五,四三〇	三,七二八	七,九二	一〇七	五,〇〇	一四七	一五	九	三
一八五〇年	七,六九七	四,九六五	一,二六一	四一五	七,五	二〇七	八九	一三	二
一八六〇年	一〇,五三二	六,二六七	一,九三三	七八三	一〇,〇	三〇五	一六八	二	〇
一八七〇年	一二,九二七	六,九〇四	二,七四六	一,三四七	一,三三八	三七九	一七六	二九	二

年次	總數	農業	工業	商業及 交通業	家庭及 人的役務	自由 業務	鑛業	木材業	漁業
一八八〇年	一七,三九〇	八,五〇五	四,一八五	二,一三三	一,六三三	六〇二	二六四	四九	四一
一八九〇年	二二,三三九	九,七七〇	五,九六九	三,六五〇	二,四〇三	九四七	四〇八	一一二	六〇
一九〇〇年	二九,〇七三	一〇,六九九	七,八五四	五,四四四	三,〇七六	一,二二三	五九七	一三二	六九
一九一〇年	三七,四五四	一二,七〇四	一〇,六三九	七,九八九	四,二二九	一,七〇六	九六五	一七四	六八
一九二〇年	四一,八五四	一〇,九三三	一三,八一九	一〇,四三三	四,一〇七	二,一三三	一,〇九〇	二二七	五三

米國ニ於ケル職業別本業者數 (千分比例)

年次	總數	農業	工業	商業及 交通業	家庭及 人的役務	自由 業務	鑛業	木材業	漁業
一八二〇年	一,〇〇〇	七一九	三三	二五	一〇〇	二八	三	二	二
一八三〇年	一,〇〇〇	七〇四	一三三	三一	九八	二八	三	二	二
一八四〇年	一,〇〇〇	六八六	一四六	三八	九六	二七	三	二	二
一八五〇年	一,〇〇〇	六四五	一六四	五四	九五	二七	三	二	二
一八六〇年	一,〇〇〇	五九七	一八三	七四	九五	二九	二	二	二
一八七〇年	一,〇〇〇	五三四	二二二	一〇四	一〇二	二九	一四	二	二
一八八〇年	一,〇〇〇	四八九	二四一	一三三	九三	三五	一五	三	三
一八九〇年	一,〇〇〇	四一九	二五八	一五七	一〇三	四一	一七	五	三
一九〇〇年	一,〇〇〇	三六八	二七〇	一八七	一〇六	四三	二二	四	二
一九一〇年	一,〇〇〇	三三三	二八四	二二三	一一三	四六	二六	五	二
一九二〇年	一,〇〇〇	二六一	三〇六	二四九	一〇一	五〇	二六	五	一

口 獨逸ニ於ケル職業別人口 (單位千人)

職業	一八八二年	一八九五年	一九〇七年
總數	四五,二二二	五一,七七〇	六一,七二一
農、林、漁業	一九,二二六	一八,五〇一	一七,六八一
工業	一六,〇五八	二〇,二五三	二六,三八七
商業及交通業	四,五三一	五,九六七	八,二七八
家庭勞務及日傭	九三八	八八七	七九三
公務自由業	二,二二三	二,八三五	三,四〇七
無職業及其他	二,二四六	三,三二七	五,一七五

獨逸ニ於ケル職業別人口 (千分比例)

職業	一八八二年	一八九五年	一九〇七年
總數	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
農、林、漁業	四二五	三五七	二八六
工業	三五五	三九一	四二八
商業及交通業	一〇〇	一一五	一三四
家庭勞務及日傭	二一	一七	一三
公務自由業	四九	五五	五五
無職業及其他	五〇	六四	八四

三  
（第二部）人口増加ニ對スル具體的方策ニ關スル調査



## 第一 勞働ノ需給調節方策ニ關スル調査

(調査項目第二部第二項)

人口増加ノ趨勢ニ依リテ國家竝ニ國民ガ脅威ヲ感ズルハ、主トシテ國家竝ニ國民ノ享受スル生活資料特ニ主要食糧ガ全人口ヲ支持スルコト能ハザルノ憂アルカ、又ハ該生活資料獲得ノ過程タル職業ノ供給ガ全人口ノ需要ヲ充ス能ハザルノ虞アル場合ナリ。而シテ我國現下ノ情勢ハ異常ノ增加人口ガ、一面ニハ食糧ノ不足ニ苦シミ、他面ニハ職業ノ缺乏ニ惱ミツツアルモノニシテ、之即チ所謂我國人口問題ノ兩面ニ外ナラズ。然レバ、人口問題ノ解決ノ主點ハ(一)如何ニシテ國民ノ生活資料特ニ食糧ヲ充實セシムベキカ(二)如何ニシテ職業供給ヲ潤澤ナラシムベキカノ二途ニ歸著スルモノト爲スコトヲ得ベシ。

職業ノ供給ヲ潤澤ナラシメ、以テ勞働人口ヲシテ容易ニ就職ノ機會ヲ享受セシメンガ爲ニハ、産業及貿易ヲ振興スルコトニ依リテ、一般的ニ勞働需要ヲ増進スルヲ以テ主タル方策ト爲スベシト雖モ、他面ニ於テハ職業ニ對スル需要供給ノ疎通圓滑ヲ圖ルコト、極メテ肝要ナリト云ハザルベカラズ。

素ヨリ經濟社會ニ於ケル勞働需要ハ、固定的又ハ靜止的ノモノニ非ズシテ、常ニ内外各種ノ要因ニ基キテ變動シ、殊ニ國際的原因ニ影響セララルモノナルガ故ニ、常ニ或程度ノ失業ノ存スルハ自然ノ勢ナリト雖モ、時ニ異常不測ノ失業ヲ發生シ、國家産業ノ堅實ナル發展ヲ害スルコト甚ダ大ナルモノアルベキヲ以テ、平時及異常時ノ失業現象全般ニ付、廣ク勞働需要ノ變動ヲ來スベキ諸原因ヲ究明スルト共ニ、各般ノ事情ヲ洞察シテ、之ガ適正ナル統制ノ方法ヲ講ゼザルベカラズ。

惟フニ、失業ノ對策タルヤ努メテカヲ失業ノ發生防止ノ方面ニ致スベキモノニシテ、之ガ爲ニハ財政、金融其ノ他ニ關スル一般政策ノ規制ニ俟ツ所極メテ多シト云フベシ。更ニ之ガ爾後ノ處置ヲ爲スニ當リ

テハ、一般財界ノ回復ニ依ル事業界ノ振興ヲ促進スルハ勿論ナリト雖モ、一面ニ於テ、職業紹介機關ニ依リ、可及的求人求職ノ結合ニ努メ、勞働ノ需給調節ヲ圖ルト共ニ、企業ノ起興按配ニ依リ授職ノ道ヲ講ジ、或ハ職業再教育機關ノ設置及利用ヲ促進スル等、過剩勞働力ノ善用ヲ考慮スルヲ以テ第一義トス。然レバ漫然タル金品ノ供與ガ往往ニシテ馴致スル懶惰助長ノ弊ハ、努メテ之ヲ避クルコトニ留意スルト共ニ、一方最善ノ努力ヲ拂ヒテモ尙ホ途ニ適當ナル就職ノ機會ヲ享受スルコトヲ得ザル失業者ニ對シテハ、其ノ者及家族ノ生活ヲ保障シ、以テ國民購買力ノ急激甚大ナル收縮ヲ防止シ、斯クシテ一般財界ノ整理緊縮ニ依ル産業回復ノ時機到來ニ對シ、國民相依リ、相忍ンデ其ノ苦難ヲ突破スルノ用意ナカルベカラズ。

現在、我國ニ於テハ、都市及農村ニ於ケル又ハ都市農村相互間ニ於ケル勞働ノ需給調節ニ關シテハ、公益職業紹介制度アリト雖モ、其ノ機能ノ擴充及改善ニ付テハ、尙ホ遺憾ノ點尠ナシトセズ。更ニ又最近日備勞働者ノ季節的失業時ニ於ケル、公營失業救濟土木事業ノ起興獎勵ノ舉アリト雖モ、尙ホ將來ニ於ケル我産業規模ノ擴大及植民地産業ノ進展ノ大勢ニ順應シ、之ガ統一アル施設ニ關シ深慮考究ヲ要スベキ餘地多シト認ム。

即チ我國ノ現狀ニ鑑ミ、差シ當リ左記ノ事項ニ留意シテ速ニ我國ノ勞働需給調節方策ノ基礎ヲ充實スルヲ要ス。

一 職業紹介制度ノ普及及改善ヲ計ルコト。

職業紹介制度ニ關シテハ、既ニ大正十年以來、職業紹介法其ノ他ノ關係法規制定セラレ、制度ノ確立ヲ見タリト雖モ、公益無料職業紹介所ノ全國的普及未ダ充分ナリト云フヲ得ズ。更ニ其ノ機能ヲ發揮セシムルニ必要ナル將來ノ改善方策ニ關シテハ、職業紹介委員會答申ノ趣旨ヲ參酌シテ、速ニ之ガ適當ノ措

置ヲ講ズルト共ニ、成ルベク速ニ朝鮮其ノ他ノ必要ト認ムル植民地ニ職業紹介法ヲ施行スルコトヲ要ス。

二 公共失業基金ヲ設置スルコト。

國及地方公共團體ガ異常失業時ニ於テ、勞働者ニ對シ授職ノ道ヲ講ジ、或ハ其ノ生活ヲ保障セントセバ、常時ヨリ其ノ財源關係ニ關シ特ニ慎重ナル考慮ヲ拂フノ要アルヲ以テ、大體左記事項ニ依リ公共失業基金ヲ設置スルヲ適當ト認ム。

- 1 國及地方公共團體ハ、毎年一定ノ金額ヲ公共失業基金トシテ積立テ之ヲ特別會計トスルコト。
- 2 道府縣、市町村又ハ組合ノ管理スル公共失業基金ヨリ生ズル利子收入ハ、之ヲ其ノ地域内ニ於ケル職業紹介事業、職業輔導及授産事業、失業共濟事業等ニ必要ナル經費ノ一部ニ充當又ハ補助スルコト。
- 3 國ノ管理スル公共失業基金ヨリ生ズル利子收入ハ、之ヲ前記ノ種類ノ事業ニ必要ナル經費ノ一部ニ充當又ハ補助スルコト。

- 4 地方公共團體ガ異常時ニ於テ起興スル失業救濟事業ノ勞働賃金並ニ人件費ハ、其ノ公共失業基金ヲ以テ之ヲ支辨スルコト。

- 5 國ノ管理スル公共失業基金ハ、必要ニ應ジ、異常時ニ於テ地方公共團體ガ起興スル失業救濟事業ノ勞働賃金並ニ人件費トシテ補助シ、或ハ失業共濟組合ガ異常ナル失業ノ繼續ニ因リ其ノ財源ヲ枯涸シタル場合ニ於テ之ガ補給ニ充當スルコト。

三 失業救濟事業ノ普及改善ヲ圖ルコト。

季節的又ハ異常失業ニ際シ、事業ヲ起興シテ失業勞働者ニ對シ特別授職ノ方途ヲ講ズルハ、漫然タル失



業手當金ノ支給ヲ爲スヨリモ、有効ナル方策タルヲ失ハザルヲ以テ、之ガ實施上特ニ左ノ事項ニ留意スルヲ要ス。

四四

1 官公營建築土木事業ノ施行ニ就テハ、特定ノ地方ニ於ケル勞働ノ需給關係ヲ考慮シ、季節的失業ノ生ゼザル様事業ノ種類、作業方法、施行時期等ヲ按配スルコト。

2 官公營建築土木事業ノ施行ニ於テハ、期限ニ羈束セラレザル不急事業ハ、可及的其ノ一部ヲ保留シテ、不況失業時ノ豫備トシ、財界沈衰時ニ於テ起興セシムルコト。

3 異常ノ失業時ニ於テ、公共團體ガ失業救済ノ爲ニ、公共團體ノ永久の利益ノ増進ヲ目的トスル新規特別ノ事業ヲ起興スルトキニ於テハ、國ハ其ノ事業ニ對シ低利資金ヲ融通スルノ外、其ノ勞働賃金並ニ人件費ニ對シ相當國庫ノ補助ヲ爲ス等、之ガ助成ノ方途ヲ講ズルコト。

4 失業共濟制度ノ普及ヲ獎勵スルコト。

失業保險制度ノ確立ニ付テハ、其ノ適用ノ範圍、主體、財源等ニ關シ、更ニ又前記ノ失業救済事業トノ聯絡ニ付、特ニ慎重ナル考慮ヲ爲スノ要アリ。之ニ關シテハ勞働保險調查會等ニ於テ相當考究シ、速ニ之ガ實施ヲ圖ルノ要アリト雖モ、内外各般ノ經驗ニ鑑ミ、國民ヲシテ相互救済ニ對スル適當ナル訓練ノ機會ヲ得セシムルハ、將來ニ於ケル失業保險制度ノ健全ナル運用ヲ確保スル爲甚ダ肝要ナリト云ハザルベカラズ。因ツテ差シ當リ、現今ノ共濟施設ヲ改善シ、失業共濟ノ方途ヲ講ズルト共ニ、特ニ日傭勞働者ニ關シテハ、便宜、其ノ集中地域ニ於テ、當該關係地方公共團體、其ノ他ノ團體ヲシテ、疾病、負傷、死亡、其ノ他ノ障害ト相並ンデ、失業ニ對シ適當ナル共濟施設ヲ爲サシメ、國ハ之ガ適當ナル監督並ニ助成ノ方途ヲ講ズルヲ必要ト認ム。

五 解雇手當制度ヲ確立スルコト。

我が國ニ於テ失業保險ヲ實施スルニ當リテハ、徒ラニ歐洲諸國ノ模倣、追從ヲノミ事トスルコトナク、良ク我國現下ノ實狀及過去ノ慣習ヲ斟酌考量セザルベカラズ。而シテ現在我國ニ於テハ、民間ノ有力ナル會社ノ間ニ往々其ノ積立金中ニ職工勤績慰勞資金或ハ使用人退職積立金等ノ名義ヲ以テスル基金ヲ設置スルモノアリト雖モ、會社ノ自由意思ニ出ヅルモノニシテ、未ダ充分ナル普及ヲ見ズ。且一朝事業ノ不況ニ際會スルトキハ、他ニ流用スルコトナキヲ保シ難カルベク、且其ノ支給金額等ニ付テモ、失業期間中ニ於ケル失業者及家族ノ合理的な生活ヲ保障セムガ爲ニハ、未ダ遺憾ノ點尠カラザルヲ以テ、事業主ニ對シ解雇手當基金設置ヲ獎勵スルト共ニ、之ガ適當ナル監督及助成ノ制度ヲ確立スルヲ必要ト認ム。

六 失業對策常置委員會ヲ設置スルコト。

財政、金融、貿易、爲替相場、物價、勞銀等、財界景況ノ循環ヲ觀測スルニ必要ナル内外各般ノ資料ヲ蒐集整理シ、之ニ基キテ時々失業防止ニ關スル機宜ノ處置ヲ勸告スルト共ニ、前記公共失業基金ノ運用並ニ失業救済事業ノ施行ニ關スル諮問ニ應ズル爲、本調査會廢止後ト雖モ、之ガ特別ノ常置委員會ヲ設置スルノ要アリト認ム。

七 知識階級ノ失業對策ヲ考慮スルコト。

輓近知識階級ニ屬スル失業者漸増ノ傾向アルハ、洵ニ憂フベキ現象ニシテ、一般失業勞働者ノ救済ト同時ニ、之ガ適當ナル統制ノ方策ヲモ併セ考慮スルノ要アリ。而シテ之等失業者ノ減少ハ畢竟一般財界ノ恢復ニ因ル事業界ノ振興ニ俟ツベキモノ多シト雖モ、一面職業紹介機關ノ活動ニ依リ、可及的就職ノ途ヲ圖ルト共ニ、之ヲ聯絡シテ失業者ノ職業ノ轉換ヲ容易ナラシムル爲、其ノ再教育機關ノ設置及利用ヲ促スコト緊要ナルベシ。然リト雖モ、知識階級ニ失業者多キ最近ノ狀態ハ、現行ノ教育制度及方針ニ基因スルモノ尠カラズ。之ガ改善ヲ圖ルコトハ刻下ノ急務ナリト認ムルヲ以テ、國又ハ地方公共團體ハ新ニ

四五

就職セントスル青少年ノ爲、適當ナル職業選擇及指導ノ制度ヲ設ケ、職業紹介機關ト教育機關トノ緊密ナル聯絡ニ依リ、其ノ就職前後ニ於ケル各般ノ指導及誘掖ニ努ムルト共ニ、我ガ國高等教育制度ノ根本方針竝ニ職業教育ノ完備ニ付テ、之ガ適切ナル具體的改善方策ヲ樹立實行スルヲ必要ト認ム。

## 第二 國內移住方策ニ關スル調査

(調査項目第二部第三項)

人口問題解決ノ根本方策ハ、産業及貿易ノ振興ニ依リテ、一面ニ於テハ國家ノ生産力ヲ増加シ、以テ國民ノ生活資料ヲ増加セシムルト共ニ、他ノ一面ニ於テハ職業供給量ヲ増加シ、以テ國民ノ就職難、生活難ヲ緩和スルニ在リト雖モ、更ニ國民ノ國內及國外移住ヲ圖ルコト、亦人口問題緩和ノ一方策タルヲ失ハズ。蓋シ國內移住ハ國內人口ヲ其ノ密度比較的稠密ナル部分ヨリ、稀薄ナル部分ニ移動セシムルニ依リテ、國內人口ノ配分ヲ適正ニ導クト共ニ、國內ニ於ケル未利用ノ土地ヲ開キテ利用ノ状態ニ移スコトニ依リ、生活資料特ニ食糧増産ノ本源ヲラシメ、更ニ移住地ニ於ケル商工業振興ノ素地ヲ形成シ、以テ職業供給ヲ潤澤ナラシムル基礎トモナルガ故ナリ。又國外移住ハ、國內人口ヲ海外ニ移植スルコトニ依リテ、國內人口ノ配分ヲ適正ナル方向ニ向ハシメ、國內ニ於ケル就職難ノ形勢ヲ緩和スルト共ニ、一方ニ於テハ、國外ニ我ガ生産品ノ販路ヲ開拓シ、及移住者自身ノ勤勞所得、事業所得ニ依リテ、我國際貸借ノ狀況ヲ良好ナラシメ、以テ海外ニ於ケル帝國ノ經濟的發展策トシテノ職能ヲ有スルガ故ナリ。且ツ又國外移住ノ問題ハ單ニ一國ノ人口問題解決ノ一方便タルニ止マラズシテ、其ノ目的ハ實ニ人類ノ共同理想タル共存共榮ノ本義ヲ實現シ、國際正義ヲ確立スルコトニ存スルガ故ニ、我ガ國ガ國外移住ノ自由ニシテ健實ナル進行ノ爲ニ努力スルハ、國家現實ノ必要ナルト共ニ又人類共同理想實現ノ爲ノ必須的過程タリ。依是觀之、國內移住國外移住共ニ獨自ノ意義ト價值トヲ有スルモノニシテ、我國ニ於テモ從來此ノ兩者ノ方面ニカヲ致シ來レリト雖モ、今日ニ於テ人口問題解決ノ立場ヨリシテ、此ノ兩方策ノ内何レヲ主トシ何レヲ從トスベキカトセバ、内主外從主義ノ方針ニ出ヅルヲ適當ナリトス。假リニ内主外從主義ニ依

ラズトスルモ、少ナクモ兩者ノ平行主義ヲ採ルベク、外主内從ノ傾向ニ赴カシムルハ採ラザル所ナリ。蓋シ國外移住ニ付テハ、國際關係ノ單純ナラザルモノアル上ニ、一般的ニ論ズレバ、國內移住ニ比シ(一)距離遠ク從ツテ之ニ伴フ種々ノ不便アルコト(二)氣候風土ノ異レルコト(三)生活狀態特ニ經濟事情ノ異レルコト(四)經費ヲ要スルコト多大ナルコト(五)農業其ノ他産業經營方法ノ異レルコト等、困難ナル事情アリ。然ルニ帝國内ニ於ケル、狀勢ヲ見ルニ、臺灣、朝鮮、關東州、南洋群島等ハ、將來ニ於ケル内地人口吸收ノ望左迄ニ多カラズト雖モ、北海道、樺太ニ至リテハ、將來ニ於ケル可耕豫定地、北海道七十八万二千町歩、樺太四十五万町歩ヲ有シ、甚ダ有望ナルモノアルノミナラズ、國外移住ノ場合ニ於ケルガ如キ困難比較的少シ。且又人口問題ノ解決ノ根本目標ハ、畢竟國民全部ノ生活ノ向上安定ニアリテ、必ズシモ人口其ノモツノ移動ニ非ルガ故ニ、移住方策ノ運用ニ當リテモ、充分發展ノ餘地アル國內移住國內開拓ヲ後ニシテ、國外移住ヲ前ニスルハ、本末轉倒ノ譏ヲ免レズ。即チ移住方策ニ於テハ、内主外從ノ原則ニ出ヅルヲ適當ナリトス。以下國內移住方策ニ付テ述ブベシ。

〔一〕 從來行ハレタル國內移住ノ實績ニ關スル調査

府縣、北海道、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島ニ於テ從來行ハレタル植民事業ノ實績ヲ見ルニ凡ソ左ノ如シ。

(一) 府縣及北海道

(甲) 府縣

從來行ハレタル國內移住ニ付テハ、農林省ニ於テ大正九年九月初メテ三万圓ノ豫算ヲ以テ開墾地移住獎勵制度ヲ設ケ、各府縣ト協力シテ開墾助成地區ニ於ケル移住者ノ家屋建築ニ對シ一戸當平均百圓ノ獎勵金ヲ交付シ來レリ。而シテ其ノ趣旨トスル所ハ、開墾地ニ移住者ヲ招致シテ開墾事業ノ經營ヲ容易

ナラシムルト共ニ、優良ナル新農村ノ創成ヲ助ケ以テ事業ノ效果ヲ永遠ニ收メントスルニ在リタリ。此ノ施設ニ對スル各府縣ノ要求ハ逐年増加シ來リタルヲ以テ、大正十三年度ニハ豫算ヲ増額シテ八萬圓ト爲シタルモ、大正十四年度ハ財政緊縮ノ爲七萬二千圓ニ減額シタリ。然レドモ移住者益々増加スルノミナラズ、從來ノ實績ニ鑑ミ補助金僅少ニ失セルヲ以テ、大正十五年度ニ於テハ豫算ヲ二十萬圓ニ増額シ一戸當平均二百圓ヲ交付スルコトトセルノミナラズ、移住者ノ共同建造物ニ對シテモ獎勵金交付ノ途ヲ開キタリ。

大正九年度ヨリ昭和元年度ニ至ル七箇年間ノ實績ハ、別表ニ示スガ如ク、大正九年度二百九十三戸ヨリ昭和元年度千六百六戸ニ漸次増加シ、其ノ總移住家屋三千七百八十四戸、現在人口約一萬七千三百人共同建造物即チ共同作業場、共同畜舎等二十四棟ニ及ビ、其ノ國庫獎勵金交付額五十萬九千二十五圓ニ達セリ。

之ヲ地方別ニ見ルニ、東北地方ニ在リテハ福島縣ノ三百三十戸、關東地方ニ在リテハ千葉縣ノ二百七十六戸、東山道地方ニ在リテハ長野縣ノ三百十戸、東海道地方ニ在リテハ愛知縣ノ百八十六戸、近畿地方ニ在リテハ兵庫縣ノ百五十二戸、中國地方ニ在リテハ鳥取縣ノ九十五戸、四國地方ニ在リテハ高知縣ノ九十八戸、九州地方ニ在リテハ宮崎縣ノ二百二十九戸等最モ多シ。

開墾地移住ニ付テハ前述ノ施設ニ依ルモノノミナラズ、此ノ外、開墾助成地區ノ移住家屋ニシテ本省ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケザルモノ、及開墾助成地區以外ノ移住家屋モ相當多數ニ上リ、大正八年度ヨリ昭和元年十二月末迄ニ前者ハ千四百五十二戸、人口六千七百九十一人、後者ハ二千五百九十二戸、人口一萬四千四十七人、合計四千四十二戸、人口二萬八百三十八人ヲ算セリ。

開墾地移住獎勵金國庫補助交付額調

(昭和二年三月末現在)

五〇

地方	大正九年度		大正十年度		大正十一年度		大正十二年度		大正十三年度		大正十四年度		大正十五年度		合計	
	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數
北海道	100	1	1,000	10	1,500	15	1,500	15	11,000	110	11,000	104	1,800	10	2,800	115
青森							1,500	15	1,500	15	1,500	15	1,500	15	1,500	15
岩手							500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
宮城							500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
秋田					1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10
山形					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
福島					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
茨城					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
栃木					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
群馬					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
埼玉					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
千葉					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
東京					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
神奈川					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
新潟					500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
合計	100	1	1,000	10	1,500	15	1,500	15	11,000	110	11,000	104	1,800	10	2,800	115

地方	大正九年度		大正十年度		大正十一年度		大正十二年度		大正十三年度		大正十四年度		大正十五年度		合計	
	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數	補助額	戸數
富山	100	1	1,100	11	1,100	11	1,100	11	11,000	110	11,000	104	1,800	10	2,800	115
石川																
福井																
山梨																
長野																
岐阜																
静岡																
愛知																
三重																
滋賀																
京都																
大阪																
兵庫																
奈良																
和歌山																
鳥取																
島根																
岡山																
合計	100	1	1,100	11	1,100	11	1,100	11	11,000	110	11,000	104	1,800	10	2,800	115

地方	本省ノ獎勵金ヲ交付シタル移住家屋		開墾助成地區ニシテ本省ノ獎勵金ヲ交付セザル移住家屋		ノ開墾助成地區以外ノ開墾地移住家屋		計
	戸數	現住人口	戸數	現住人口	戸數	現住人口	
北海道	一三三	七六三	六九	四五七	五	二八	一、二四八
青森	三	三五	九	四四	一一	五九	一三八
岩手	八四	四二四	一一	四三	三二	二〇七	七八八
宮城	七四	三四八	七	二八	一一	八一	三七六
秋田	一〇九	四六二	二一	一一一	三	一三三	五八五
山形	二六九	一、一三三	三五	一四六	一一	三〇四	一、二六九
福島	一七	五九	七七	二九三	一一	九四	三五二
茨城	二一〇	一、〇四七	五二	二四二	六九	三三一	一、六〇四
栃木	一一五	五七七	八三	三六八	一一	二〇八	八八五
群馬	二〇	九六	三六	一四八	一一	二〇	九六
埼玉	七二	二七七	二二〇	一、一八〇	一一	四九四	二、三〇〇
千葉	一三六	八四七	一一	五四	一一	一四八	九〇一
東京							
神奈川							

二 本表ノ國庫補助額ト前文ノ國庫豫算額ト一致セザルハ他費目ヨリ流用シタルモノアルニ依ル。  
府縣ニ於ケル開墾地移住ノ實績  
(昭和元年十二月末現在)

備考  
一 戸數棟數欄ノ(共)ト在ルハ共同建造物ヲ示ス。

地方	大正九年度		大正十年度		大正十一年度		大正十二年度		大正十三年度		大正十四年度		昭和元年度		合計
	補助額	棟數	補助額	棟數	補助額	棟數	補助額	棟數	補助額	棟數	補助額	棟數	補助額	棟數	
廣島	500	1	1,100	1	1,100	1	1,100	1	1,100	1,100	1	1,100	1	8,100	6
山口															
徳島															
香川															
愛媛	500	1													
高知															
福岡															
佐賀															
長崎															
熊本	500	1													
大分															
宮崎															
鹿児島															
沖繩															
計	500	1	1,100	1	1,100	1	1,100	1	1,100	1,100	1	1,100	1	8,100	6



備考  
本調ハ地方應報告ニ依ル。

計	島岡廣山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖												
	根	山	島	口	島	川	賀	崎	本	分	崎	島	繩
戸數	六	四三	六〇										二、六九六
現住人口	三七	一九九	二〇八										一一、八六五
戸數	六	一三七	一一	九									一、四五一
現住人口	二七	六一七	二七	三四									六、七九一
戸數													二、五九二
現住人口													一四、〇四七
戸數													六、七三九
現住人口													三三、七〇三

地方	新潟富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥																		
	潟	山	川	井	梨	野	阜	岡	知	重	賀	都	阪	庫	良	山	歌	取	
戸數	六八	六四																	九三
現住人口	三二一	一九七																	四五〇
戸數																			二四
現住人口																			九七
戸數	一五																		
現住人口	一〇五																		
戸數	八三	六四																	一一七
現住人口	四二六	一九七																	五四七

(乙) 北海道

北海道開墾ノ爲内地人ヲ移住獎勵シタル歴史ハ極メテ古ク、既ニ幕府直轄時代ヨリ移住開墾ヲ獎勵シ、安政時代ニ至リテハ、未開墾地開拓者ニ對シ、開墾地一反歩ニ付金二分二朱、用悪水路掘削工事百間ニ付金一兩ヲ貸付シ、十年賦ヲ以テ返納セシメ、或ハ新開地ニハ五箇年ノ鍬下免除ヲ爲ス等、相當整備シタル方針ノ下ニ、移住開墾ノ獎勵ニ努ムル所アリタリ。

其ノ後明治五年北海道開拓使派遣當時ヨリ、三縣一局時代ヲ經テ今日ニ至ル迄、

明治五年九月 北海道土地賣貸規則及地所規則

明治七年 移住農民給與規則

明治八年 華士族家錄奉還資本受取者家産營業地所賣貸規則

明治十六年 移住士族取扱規則

明治十九年六月閣令 北海道土地拂下規則

明治三十年法律第二十六號 北海道國有未開地處分規則

明治三十九年内務省令第二十九號 北海道移住規則

明治四十一年法律第五十七號 北海道國有未開地處分法改正法律

明治四十三年北海道廳決議 團結移住者規約標準

等各種ノ規程ヲ設ケテ、官有未開墾地ノ拂下又ハ地租免除移住者保護等ノ方策ヲ盡シ、或ハ北海道拓殖計畫等ヲ樹テ、不斷ノ努力ヲ繼續シ、以テ今日ニ至レルモノトス。

明治初年ニ於ケル北海道ハ、尙ホ全道殆ンド官有地ニシテ、人口僅ニ五萬八千人ニ過キザリシモ、六十年後ノ大正十四年國勢調査ニ依ル人口ハ二百五十萬人ニ達シ、民有地ノ面積、總面積七百九十六萬五千町

歩ノ内、三百六萬八千町歩ニ及ビ、殆ンド全道總面積ノ二分ノ一ヲ占ムルニ至レリ。而シテ農耕地ノ面積ハ北海道内ニ於ケル農耕地總面積百五十八萬千六百町歩ノ内既ニ七十九萬八千八百一十一町歩ニ達シ、之ニ從事スル農家戸數ハ實ニ十九萬千七百戸ニ達シ、更ニ牧畜業者ヲ加フレバ三十萬戸ヲ數フルニ至リ、農産物畜産物ノ生産總額ハ一億三千七百萬圓(大正十二年)ニ達セリ。

即チ北海道拓殖開墾ノ過程ハ其ノ半ヲ達成シタルモノト云ヒ得ベキモ、將來尙ホ多量ナルモノアリ。

(二) 朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島

現在我が殖民地ニハ、關東州ヲ除キ、官私營ノ何レカニ依リ移民事業行ハレツ、アリ。關東州モ曾テ大正之初メ福島都督時代ニ移民事業ヲ行ヒ、金州附近ニ移民村愛川村ヲ建設シタルコトアレドモ、其ノ結果ハ失敗ニ終リ、爾來移民事業ヲ計畫スルモノナシ。蓋シ地域其ノ他ノ關係上當然ノコトト云フベシ。其ノ他ノ四殖民地ニハ、何レモ移民事業行ハルト雖モ、此ノ中南洋群島ヘノ移民ハ、目下沖繩縣人、小笠原島民等ヲ主トシ、又臺灣ニ於テハ、嘗テ非常ナル努力ヲ以テ内地移民ノ招致ニカメテ相當ノ効果ヲ舉ゲ、且將來尙多少内地移民收容ノ餘地ナキニ非ザルモ、之ニ多キヲ期待スルコトヲ得ズ。更ニ朝鮮移民ニ至リテハ、過去ニ於テ東拓ニ依リ相當ノ成績ヲ舉ゲタリト雖モ、朝鮮統治其ノ他ノ關係上、今後ノ朝鮮移民モ亦到底多大ノ發展ヲ期シ難キガ如シ。要スルニ、我が五殖民地中將來ノ移民問題ニ關シ、相當ノ價值アルモノハ、獨リ樺太アルノミ。

以下殖民地別ニ、過去及現在ニ於ケル移住計畫ノ大要ヲ述べ、併セテ將來ノ移民收容力其ノ他將來ノ計畫ニ付述ブベシ。

A 概要

朝鮮總督府ハ從來移住民ニ對シテ、何等直接保護獎勵ヲ加フルコトナク、専ラ東洋拓殖會社ヲシテ之ガ實行ニ當ラシメタリ。但シ、農業改良上ノ施設、國有未墾地ノ利用等ニ對シ保護ヲ要スルトキハ、移住者ニ對シテモ一般的ニ便宜ヲ與ヘ居レリ(國有未墾地利用法、土地改良事業補助規則)。東洋拓殖株式會社ハ政府ノ直接間接ノ保護監督ノ下ニ明治四十三年移住規則ヲ制定シ、内地人移民ヲ朝鮮ニ招徠シテ之ニ社有地ヲ讓渡シ、各種ノ保護指導ヲ與フルコトトシ、爾來毎年一回内地各府縣ヨリ移民ヲ收容スルコト大正十五年ヲ以テ十六回ニ及ビ、其ノ戶數約四千戶、人口約二萬人、讓渡地面積九千餘町步、江原道、平安南道、咸鏡北道ノ三道ヲ除ク外、朝鮮全土ニ互リテ地方開發内地人ノ根據ヲ作ルニ貢獻シツツアリ。

大正八年不二興業株式會社モ亦政府援助ノ下ニ、群山附近ニ於テ約二千五百町步ノ干潟地干拓事業ニ著手シ、築堤、貯水池其ノ他必要ナル工事ヲ施シ、大正十二年三月竣工シ、一千八百五十町步ノ水田ヲ得タリ。依テ會社ハ八百五十町步ヲ朝鮮人ニ耕作セシメ、殘餘ノ約一千町步ハ内地人ノ集團移民三百餘戶ヲ收容シテ之ニ讓渡シ、以テ純然タル内地人農村ヲ形成セシメ、飽ヲ他ニ示スト共ニ、政府ノ移民政策ニ呼應シ、一面朝鮮産業ノ啓發ニ資スルコトトナレリ。而シテ大正十三年(第一回)三十七戶、一四三人、大正十四年(第二回)四十五戶、一六〇人、大正十五年(第三回)二十五戶、六十七人ノ移民ヲ收容シタルガ、更ニ昭和二年度二十二戶、九十四人同三年百八戶、昭和四年一〇六戶ノ移民ヲ募集シ、合計三百三十三戶ノ移民農村ヲ建設スル豫定ナリ。

右ノ外曾テ、内地各府縣朝鮮水産組合等ノ保護獎勵ノ下ニ、内地漁業移民ヲ沿岸適地ニ移住セシメタル

コトアレドモ、成績不良ニ終レリ。

B 將來ノ移民計畫及移民收容力

東拓ニ於テ昭和二年度以降收容シ得ベキ移民戶數ハ五町步移民三八八戶ニシテ、不二興業會社ハ昭和三年度及四年度ニ於テ二百十四戶ヲ收容セントス。

現在朝鮮ニ於ケル移民計畫トシテハ以上ノ二ニ過ギズ。唯間接ノ施設トシテハ、國有未墾地利用法ニ依リ、事業希望者ニ未墾地ヲ貸付ケ、事業成功後付與シ得ルノ道ヲ開キツツアルガ故ニ、此ノ方面ヨリ移民事業ハ將來ニ於テモ相當計畫セラルルコトアルベシ。

尙ホ以上ノ外、朝鮮總督府ニ於テハ、朝鮮ニ於ケル産米増殖ヲ目的トシ、第一期事業トシテ大正十五年度以降十二箇年ヲ期シ一般耕種法ノ改善以外三億三百萬圓ノ巨費ヲ投ジテ、總面積三十五萬町步ニ對スル土地改良事業ヲ施行スルコトトシ、之ニ對スル政府ノ助成金、人件費等ノ豫算ハ既ニ第五十一議會ニ於テ可決セラレ、之ガ事業資金ニ付テモ政府ヨリ低利資金ヲ斡旋スルコトトナリ居レリ。本計畫ニシテ支障ナク進捗セバ、移民事業モ亦相當見ルベキモノアルベシ。

朝鮮移民過去ノ經過ニ付考フルニ、東拓移民事業開始當時ハ、多數ノ應募者アリテ選擇ニ苦シミタル狀況ナリシモ、近年ニ至リ次第ニ減少シ、殊ニ大正十一年以降激減シ、大正十三年度ニ於テハ募集戶數三百五十戶ニ對シ應募戶數二百七十二戶ニ過ギザル狀況ナリ。之朝鮮移民ヲ甚ダ有利ナリト夢想セル者ノ漸次減少シタルト、過去ノ經驗上東拓ニ於テ從來募集シタル二町步移民ヲ大正十一年以降廢止シ、全部五町步移民ヲ募集スルコトトナリ、其ノ結果、東拓移民ヲラント欲セバ一戶三千圓乃至四千圓(渡鮮費定住費並土地代金ノ四分ノ一)ノ資金ヲ要スルニ至リタルガ爲メナリ。蓋シ此ノ如キ資金ハ内地小作農ノ到底所持セザル所ニシテ、自己ノ所有田ヲ賣放チテ初メテ此ノ資金ヲ得ル程度ノ農民ニ在リテハ、祖先傳

來ノ美田ヲ棄テ淳朴和樂ノ鄉村ヲ離レテ、朝鮮ニ移住スルニ忍ビザルベケレバナリ。此ノ如ク、東拓移民ハ甚シク不振ニシテ、統計ニ付テ見レバ、大正九年度以降更ニ増加セズ、實際移住數ヨリモ却テ解除數多キガ如ク、斯クノ如キ狀況ヲ以テ推移スルニ於テハ、東拓移民ハ漸次消滅スルニ至ルベシ、又東拓自身トシテハ移民事業ノ有利ナラザル爲メ、之ガ獎勵ニ不熱心ニシテ、其ノ不振ノ原因ノ半ハ實ニ此ノ點ニ存スベシ。

更ニ、朝鮮ニ於ケル農業移民收容ノ基礎ヲ爲スベキ耕地ノ殆ト全部ハ私有地ニ屬シ、農家一戸當リ耕地面積ハ内地ニ比シ多少大ナルモ、土地ノ生産力ハ著シク寡少ニシテ、米ノ如キ其ノ産額一反步平均僅ニ九斗餘ニ過ギズ。從テ農村資力ノ薄弱ニシテ生活程度ノ低キコトハ、實ニ相像以上ナリ。從テ之等ノ土地ヲ本據トシテ移民ヲ收容セントセバ、現在ノ農民ヲ他ニ移轉セシメザルベカラザルベク、縱令土地改良事業ニ依ル耕地ノ増加又ハ耕地ノ利用増進ノ結果、尙ホ若干ノ移民ヲ收容スルヲ得ルニ至ルベシト雖モ、之ニ因リ朝鮮民心ノ動搖ヲ免レズ。從來東拓ノ朝鮮各地ニ於テ甚シク敵視セラレタルハ、主トシテ此ノ理由ニ依ルモノノ如シ。

國有未墾地ノ開墾ニ依ル移民ハ以上ノ批難ヲ免ルルヲ得ベク、此ノ意味ニ於テ獎勵ノ價值アリト雖モ、多額ノ開墾費ヲ要シ(不二興業會社ノ場合一反步當百圓)、更ニ其ノ開墾地ヨリ一定ノ收穫ヲ見ル迄七年乃至八年間ノ生計費ヲ豫メ備ヘザルベカラズ。不二興業會社ハ、政府ノ援助アリ且地味肥沃當局者ノ非常ナル努力ニ因リテ、略成功ノ見込付キタルガ如キモ、尙ホ樂觀ヲ許サザルモノアリ。一般企業者ニ取リテハ、更ニ困難ナル事業ナリト云フベシ。

C. 移民ニ關スル施設

(天) 東拓移民

東洋拓殖株式會社ニ於テ實施シツツアル移民獎勵施設左ノ如シ。

(1) 渡航斡旋及船車賃割引

毎年移民渡航ノ際、適宜ノ地ニ移民案内所ヲ置キ、旅館ノ特約割引、引越荷物ノ世話等諸般ノ斡旋ヲ爲シ、且ツ渡航ニ要スル旅客運賃ハ鐵道省ノ發行ニ係ル割引券ヲ交付シテ、其ノ五割ヲ割引セリ。

(2) 住家ノ準備

會社ハ希望ニ依リ、移住地附近ニ適當ノ家屋アルトキハ、之ヲ借入又ハ買入ノ周旋ヲ爲ス。

(3) 割當地代金ノ貸付

讓渡地ハ一戸ニ付五町步ヲ標準トシ、其ノ價格ハ比較的低廉ニ見積リ、土地引渡ノ際其ノ四分ノ一ヲ一時ニ拂込マシメ、殘額ハ年七分ノ利子ヲ附シ二十五ヶ年以内ノ元利均等年賦拂込ノ方法ニ依リ其ノ支拂ヲ爲サシム。

(4) 種苗、肥料、農具等ノ貸付

移民ニ對シ種苗肥料、農具、耕牛等ノ貸付ヲ爲シ、農事講話會ノ開催、生産品ノ販賣斡旋等諸般ノ農事上ノ指導ヲ爲ス。

(5) 教育、衛生、宗教上其ノ他ノ施設

移民子弟ノ就學スル小學校ニ對シテハ設備費、維持費ヲ寄附シ、僻地ノ移民子弟ノ爲ニ媒姆ヲ置タル兒童預リ所ヲ設置ス。現在補助ヲ與ヘ居ル學校二三一、兒童預リ所六〇、校舍敷地又ハ實習地ヲ無料貸付セルモノ九アリ。

移住地附近ノ醫師ニ手當ヲ支給シ、囑託醫トシテ移民ニ無料診察藥價ノ割引ヲ爲サシム。囑託醫三七アリ。

(6) 罹災救助

水旱害其ノ他ノ災害ヲ蒙リ、將來ノ經營ニ支障ヲ來シ、救濟ヲ必要トスル場合ハ、金品ノ貸付及給與ヲ爲シ、生業ヲ扶助ス。

(地) 不二興業會社移民

政府ハ、朝鮮殖産銀行ヲ通ジ不二興業會社ノ移民事業ニ對シ、現在低利資金百萬圓ヲ融通シ居リ、又内務省社會局ニ於テハ、本移民ニ對シ一戸當三百圓ノ補助金ヲ交付ス。

會社ハ移民一戸ニ對シ水田三町步(一反百七八十圓見當)及住宅地ニ六三坪ヲ讓渡スルモノニシテ、割當地代金ハ、土地ノ代價ニ年六分ノ利子ヲ附シ、土地引渡後五箇年間据置、以後十五箇年又ハ二十五箇年間ノ元利均等年賦拂込ノ方法ニ依リ支拂ヲ爲サシメ、其ノ他渡航、船賃、船賃、汽車賃ノ割引、住家ノ準備(會社之ヲ建築シ其實額ヲ振替貸付ス)、農業ノ指導、罹災救助、教育、宗教、衛生其ノ他ノ施設等略々東拓ノ保護施設ト同様ノ施設ヲ爲セリ。

(乙) 臺灣

A 内地農業移民ノ沿革

臺灣ニ於ケル内地農民ノ移殖事業ハ、明治四十年前後ヨリ私人ノ經營ヲ以テ島内各地ニ企テラレタルモ、移民ノ素質不良、待遇過薄、風土病猖獗等ノ爲、數年ナラズシテ、悉ク失敗ニ歸シ、其ノ後私人ニシテ内地移民ヲ企圖スル者極メテ稀ナルニ至レリ。

臺灣總督府ハ明治四十二年ヨリ東部臺灣ニ於テ自ラ内地移民招致ノ計劃ヲ樹テ、調査ノ結果移民豫定地十四ヶ所、面積一萬五千甲步ヲ得テ、翌四十三年ヨリ吉野村ノ建設ニ著手シ、次デ大正元年豊田村、同三年林田村ヲ建設シタルモ、經費其ノ他ノ關係上、以上三村ノ完成ト共ニ官營移民事業ヲ打切ルコトトシ、

吉野村ハ大正五年度限り、他二村ハ同六年度限り、何レモ必要ナル設備ヲ完成シテ所轄花蓮港廳ニ引繼ヲ了シ、茲ニ官營移民事業ヲ終結セリ。

官營事業ニ依リ建設セラレタル移民村ハ、戸數六七七戸、人口三千三百六十八人、耕地面積田三百五十三甲、畑二千七百七十甲(大正十四年末現在)ニ達セリ。又、私營移民事業ハ、臺東開拓株式會社ニ依リテ臺東廳下ニ企テラレ、大正十四年末現在ニ於テ内地人九十四戸、四百五十四人、本島人百九十七戸、七百九十四人、蕃人二十七戸、百五十七人ヲ收容セリ。

次デ總督府ハ、別表ニ示スガ如ク、大正十一年度以降五箇年計畫ノ下ニ灌溉工事費、開墾費及移住費等ヲ補助シ、臺東開拓株式會社ヲシテ本島人ヲ主體トスル東部海岸ノ移民事業ヲ行ハシムルコトトセリ。即チ會社ハ、既墾地二、五二七甲(田六三八甲、畑一、八八九甲)、未墾地三、〇〇五甲(田一、八四三甲、畑一、一六二甲)、計五、五三二甲ノ土地ニ一、三二九戸(第一年自二〇九戸、第二年自三二二戸、第三年自三二二戸、第四年自二五六戸)ノ移民ヲ收容セント計畫セリ。

然レドモ、右計畫ハ種々ノ事情ニ依リ豫定ノ計畫ヲ遂行スルコト能ハズ。即チ相當ノ補助金ヲ支給シテ、大正十二年度美和圳ヲ完成シ、同十三、四年度卑南圳、十五年度以降大原、鹿野各圳工事費補助ヲ爲ス計畫ナリシモ、美和圳ノ完成ヲ見タル外ハ、工事ニ伴フ經費其ノ他ノ關係上、十三、四年度ノ卑南圳ノ工事ヲ中止シ、之ガ爲大正十四年度ニ於テハ、専ラ美和圳完成ニ依ル移民ノ充實ヲ計ラシムルコトトシ、家屋建築、藥價及開墾費ノ補助ヲ爲スコトトセリ。

別表

拓殖ニ要スル經費及補助額

(右經費左總督府補助費)



計	第五年目	第四年目	第三年目	第二年目	第一年目	内		備考
						灌漑工事費	開墾費	
						總額	移 民 費	移民補助内譯
						六八八、〇二三	一八八、九七七	二二、一七五
						二七六、四〇五	二七、七三七	四、五六二
						七三七、三〇九	二七〇、一二四	二八、六五〇
						二四〇、〇六五	三四、一二五	五、四七五
						一、〇二七、四九八	二七二、五二三	二八、六五〇
						二四〇、〇六五	三五、九五〇	七、三〇〇
						四一七、四九六	二八二、八九六	一九、二〇〇
						一四九、六五〇	二六、五〇〇	七、三〇〇
						一七四、二〇三	一一〇、三五三	
						七、三〇〇	七、三〇〇	七、三〇〇
						三、〇四四、五二九	一、一三四、八七三	
						九一三、四八五	一三一、六一二	

B. 將來ノ移民計畫及移民收容力

本島ニ於テ今後移民事業ヲ行フベキ地域ハ、主トシテ東部臺灣、即チ花蓮港及臺東兩廳下一體ノ地帯ナリトス。其ノ面積五百二十四方里、平均一方里ノ人口密度僅ニ一九五人ニ過ギズ。中央山脈及海岸山脈ヲ含ム七十二萬餘甲ノ森林、並ニ延長百六十哩ニ及ブ海岸ハ、林業漁業ノ資源タルト共ニ、三萬七千餘甲

步ノ可耕未墾地及六千餘甲ノ牧場適地ハ、本島農業上ノ富源ニシテ、移民收容ノ可能性アルモノト云ハザルベカラズ。

惟フニ、東部臺灣ニ於ケル未墾地開拓ノ見地ヨリ見レバ、本島民ハ其ノ生活簡易ニシテ、極端ナル粗衣粗食ニ甘ンシ、而モ祖先傳來本島ノ氣候風土及農業經營ニ慣熟セル點ニ於テ、内地人ニ比シ著シク優レルモ、内地人ノ移植モ亦過去ノ經驗ニ徴シ、其ノ指導經營宜シキヲ得バ、相當ノ效果ヲ舉グルコト決シテ不可能ニ非ザルベシ。而シテ臺灣ハ、領有以來三十年ヲ經過スル今日、内地人ハ僅カニ十八萬ヲ算スルニ過ギザルノミナラズ、過去數年間殆ンド遞増ノ跡ヲ見ズ。斯ノ如キハ、本島統治上及民族ノ融和上將來憂フベキ結果ヲ招來スルノ虞アルヲ以テ、此ノ大勢ヲ挽回スル爲、内地人ノ移住定著ヲ獎勵シテ其ノ増加ヲ計ルノ必要アリトシ、總督府ニ於テハ東部臺灣ニ於ケル内地移民ノ招致ヲ圖ルニ付目下調査中ナリ。即チ大正十五年以降總督府ハ、内地農民移植ノ目的ヲ以テ東部臺灣ノ拓殖方針ヲ樹立スル爲、其ノ豫備調査トシテ、可耕未墾地約八千五百甲ノ土質適作物、灌漑排水ノ便否、利用ノ價值並ニ河川ノ汎濫防止、耕地ノ保護及造成等ヲ調査スルト同時ニ、道路、港灣、鐵道等ニ關スル調査ヲ爲スコトトセリ。

C. 移民ニ關スル施設

(天) 從來臺灣總督府ノ移民獎勵ニ關スル施設大體左ノ如シ。

(1) 移民收容ニ關スル特典

開墾ノ目的ヲ以テ森林原野豫約賣渡ノ許可ヲ受ケタル者(以下起業者ト稱ス)ニシテ内地人タル農業者ヲ其ノ地ニ移住セシムル場合、及内地人タル農業者ニシテ其ノ地ニ移住シ森林原野豫約賣渡ノ許可ヲ受ケ自ラ開墾ニ從事スル者(以下開墾従事者ト稱ス)ニハ、必要ニ應ジ以下各項ノ特典ヲ與フルコトアルベシ。

起業者ニ對スル特典

- イ 移民ノ現住地ヨリ移住地ニ至ル汽車汽船賃ハ、臺灣總督府ニ於テ發行シタル割引券ヲ交付シテ、其ノ五割ヲ割引スルコト。
- ロ 移民一戸(妻帯者ニ限ル)ニ付、家屋一棟建築費ノ半額以內ヲ補助スルコト。  
家屋建築後三箇年未滿ニシテ天災其他不可抗力ニ因リ亡失破壊シ、再築シタルトキハ、尙ホ一回ヲ限り、前號ノ補助金ヲ交付スルコト。
- ハ 移民ノ移住後五箇年間ハ、風土病ノ豫防及治療ノ爲要スル藥價ノ半額以內ヲ補助スルコト。
- ニ 移民ノ子弟ニ對シテ移住後三箇年間小學校ノ授業料ヲ免除スルコト。
- ホ 移民ニ讓渡スヘキ開墾成功地ニ對シテハ、一甲ニ付三十圓以內ノ開墾費ヲ補助スルコト。
- ヘ 灌漑施設費ノ半額以內ヲ補助スルコト。
- ろ 開墾従事者ニ對スル特典

前記起業者ニ對スル特典中イ、ロ及ニ、ノ各項

(2) 移民收容ニ關スル起業者ノ義務

- イ 移民ノ爲ニ醫療所ヲ設ケ醫師ヲ置キ衛生及醫療ヲ掌ラシメ、竝ニ風土病ノ防遏ニ從ハシメ、且移民ノ醫藥料及處置料ハ之ヲ實費トスルコト。
- ロ 移民一戸ニ付一甲六分以上ノ耕地及宅地ヲ移民ニ讓渡シ、且此ノ外、耕地二甲以上ノ小作權ヲ附與スルコト。但シ其ノ讓渡價額ハ、開墾實費ヨリ前記開墾費補助金額ヲ控除シタル

額以內ニシテ、無利息十年乃至十五年賦拂トス。

- ハ 移民ヲ居住セシムヘキ家屋ハ無償ニテ貸與シ、移住後三箇年ノ終ニ於テ官ノ指定スル價額ヲ以テ無利息十箇年賦ヲ以テ讓渡シ、且家屋貸與期間中天災其ノ他不可抗力ニ因リ亡失破壊シタルトキハ、官ノ指定期間内ニ再築スルコト。
- ニ 移民ニシテ善良ノ風俗ヲ害シ又ハ公安ヲ紊ルノ虞アル者ハ、起業者ヲシテ自己ノ費用ヲ以テ本籍地ニ送還セシムルコト。
- ホ 移民中天災又ハ病氣等ノ爲困窮ニ陥リタル者アルトキハ、起業者ハ相當ノ救濟ヲ爲スコト。
- ヘ 移民トノ間ニ締結スヘキ移住契約(小作契約ヲ含ム)ハ豫メ臺灣總督ノ認可ヲ受クルコト。

(地) 臺東開拓株式會社ノ移民ニ關スル施設左ノ如シ。

(1) 耕地

- イ 耕地見込地三甲宛割當ツルコト。
- ロ 右耕地ハ移民ヲシテ開墾セシメ、且移民ニハ一日賃金平均五十錢ヲ給スルコト。
- ハ 開墾ハ二箇年ニテ終了セシムルコト。
- ニ 耕地三甲ノ内一甲ハ移民ニ讓渡シ、二甲ハ永代小作ニ附スルコト。
- ホ 讓渡スヘキ一甲ノ地代金ハ開墾後三ヶ年据置キ、四年目ヨリ十ヶ年賦ニテ支拂ハシムルコト。
- ヘ 讓渡地代金ハ開墾實費ヨリ補助額ヲ控除シタルモノトスルコト。